



# ヨーバル®トツプ 箱粒剤

# いもち病も、 主要害虫も、 強カブロック!



- 高密度播種に高い適用性
- 新規殺虫剤「ヨーバル」含有
- は種前から移植当日まで使用可能

慣行播種  
箱当り  
50~75g

高密度播種  
箱当り: 50~100g  
(1kg/10aまで)



® ヨーバル, ® ルーテンはバイエルグループの登録商標



バイエル クロップサイエンス株式会社  
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262  
<https://cropscience.bayer.jp/>  
お客様相談室 ☎0120-575-078  
9:00~12:00, 13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



## 目次

特長/有効成分の名称および物理的・化学的性状等	2
安全性(製剤)/適用病害虫および使用方法	3
テトラニプロールの作用機構/テトラニプロールの作用特性	4
イソチアニルの作用機構	5
ヨーバル®トップ箱粒剤の高密度播種への適用性	6
ヨーバル®トップ箱粒剤の水稻への安全性	7
病害虫への効果	8
新農業実用化試験 概評(抜粋)	11

## ヨーバル®トップ箱粒剤の特長

### ●新規殺虫剤「ヨーバル®」と水稻病害防除の定番「ルーチン®」配合

- 新しいジアミド系殺虫剤「ヨーバル®」(有効成分:テトラニプロール)は、初期害虫のイネミズゾウムシ、イネドロオウムシやチョウ目害虫のニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガ等、水稻の主要害虫に優れた効果を発揮します。
- いもち病防除の定番「ルーチン®」(有効成分:イソチアニル)は、各種の既存薬剤耐性菌を含むいもち病や、水稻の主要な細菌病害に安定した効果を発揮します。

### ●は種前、は種時から移植当日まで使用可能!

覆土、床土混和や、は種時覆土前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

### ●高密度播種へ高い適用性

高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)

### ●慣行播種でも、50~75g/箱の範囲で使用可能

## 安全性(製剤)

### 人畜毒性:普通物\*

急性経口毒性(ラット♀) LD50 > 2,000mg/kg  
 急性経皮毒性(ラット♂♀) LD50 > 2,000mg/kg  
 皮膚刺激性(ウサギ) 刺激性なし  
 眼刺激性(ウサギ) 刺激性なし  
 皮膚感受性(モルモット) 感受性なし(ただし、イソチアニル、テトラニプロールに皮膚感受性あり)

### 水産動植物への影響

魚類急性毒性(コイ) LC50(96時間) > 1,000mg/l  
 ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ) EC50(48時間) 0.538mg/l  
 藻類生長阻害(緑藻) ErC50(0~72時間) > 1,000mg/l \*「毒物および劇物取締法」に基づく毒物・劇物に該当しないものを指して言う通称

## 適用病害虫および使用方法

(2021年11月現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲(箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50~75g	は種前	本 剤: 1回  テトラニプロール: 1回  イソチアニル: 3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	育苗箱の床土 または 覆土に均一に混和する
	は種時(覆土前)		育苗箱の上から 均一に散布する		
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネヒメハモグリバエ	移植3日前 ~移植当日	育苗箱の床土 または 覆土に均一に混和する		
	いもち病、白葉枯病 内穎褐変病、もみ枯細菌病 イネドロオウムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ、イネツトムシ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ、イナゴ類	は種前			
	高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50~100g)	は種時(覆土前) ~移植当日			育苗箱の上から 均一に散布する
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	は種時(覆土前)			
穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネヒメハモグリバエ	移植3日前 ~移植当日				

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

## 有効成分の名称および物理的・化学的性状等

■商品名:ヨーバル®トップ箱粒剤 ■農林水産省登録:第24319号 ■試験名:BCM-141粒剤 ■種類名:テトラニプロール・イソチアニル粒剤  
 ■有効成分および含量:テトラニプロール…1.5% [殺虫剤分類 28] イソチアニル…2.0% [殺菌剤分類 P3]  
 ■性状:類白色細粒 ■有効年限:4年

有効成分名	イソチアニル	テトラニプロール
化学名	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド	1-(3-クロロ-2-ピリジリル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-メチルカルバモイル-3-[5-(トリフルオロメチル)-2H-テトラゾール-2-イル]メチル]ピラゾール-5-カルボキサニリド
構造式		
分子量	298.15	544.88
融点	193.7~195.1℃	227~230℃
水溶解度(20℃)	0.5mg/l	1.2mg/l
蒸気圧	2.36×10 <sup>-7</sup> Pa(25℃)	3.2×10 <sup>-6</sup> Pa(20℃)、4.6×10 <sup>-6</sup> Pa(25℃)
オクタノール/水分配係数(log Pow)	2.96(25℃)	2.6(25℃)
作用機構(FRAC/IRACコード)	宿主植物の抵抗性誘導(P3)	リアノジン受容体モジュレーター(28)

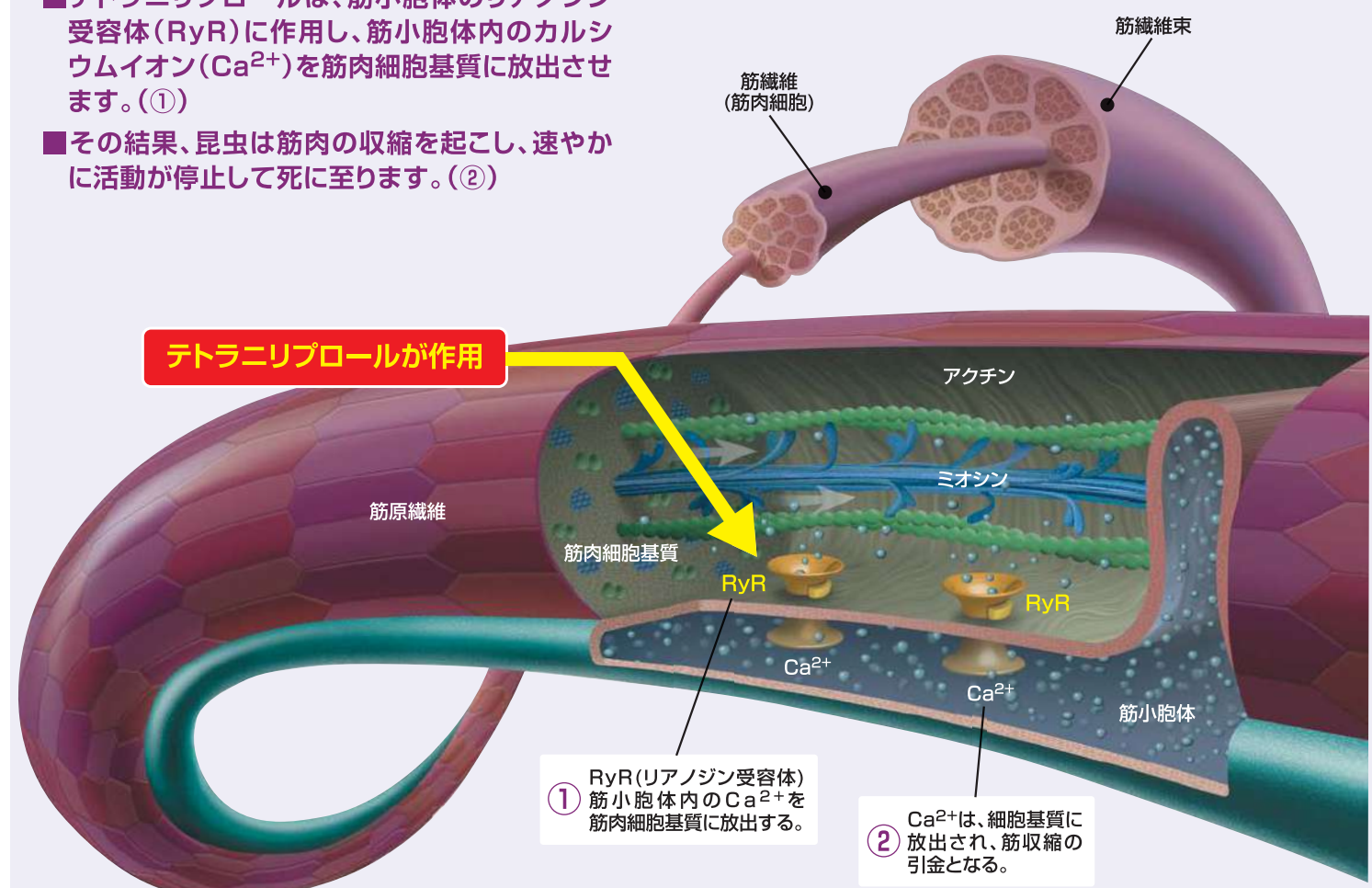
## 注意事項

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさせて下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けて下さい。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとも衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

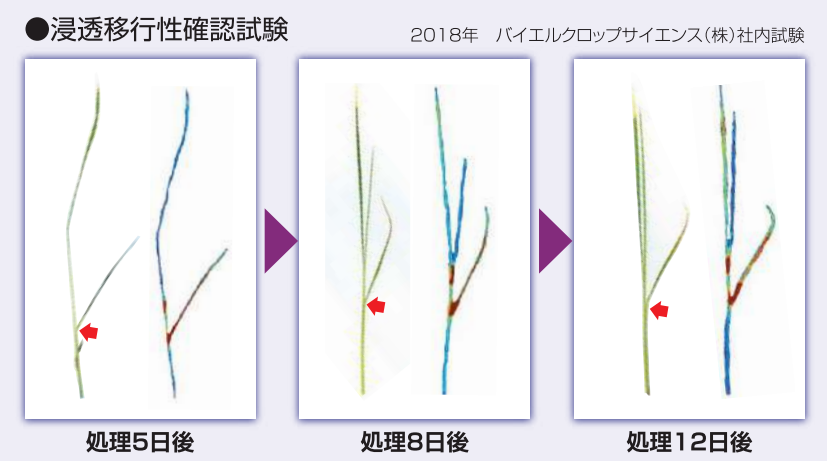
◎播種同時施肥機や田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

## テトラニプロールの作用機構

- テトラニプロールは、筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に作用し、筋小胞体内のカルシウムイオン(Ca<sup>2+</sup>)を筋肉細胞基質に放出させます。(①)
- その結果、昆虫は筋肉の収縮を起こし、速やかに活動が停止して死に至ります。(②)



## ■テトラニプロールは優れた浸透移行性を有します。



## ■テトラニプロールは水稲害虫に対し幅広い殺虫スペクトラムを有します。

害虫名		テトラニプロールの殺虫スペクトラム(水稲(育苗箱))
チョウ目	ニカメイチュウ	○
	コブノメイガ	○
	フタオビコヤガ	○
	イネツトムシ	○
コウチュウ目	イネドロオイムシ	○
	イネミスゾウムシ	○
カメムシ目	ツマグロヨコバイ	○
ハエ目	イネヒメハモグリバエ	○
バッタ目	コバネイナゴ	○

○：殺虫活性あり  
□：特に活性の高い害虫

## テトラニプロールの作用特性

### ●テトラニプロールによる症状

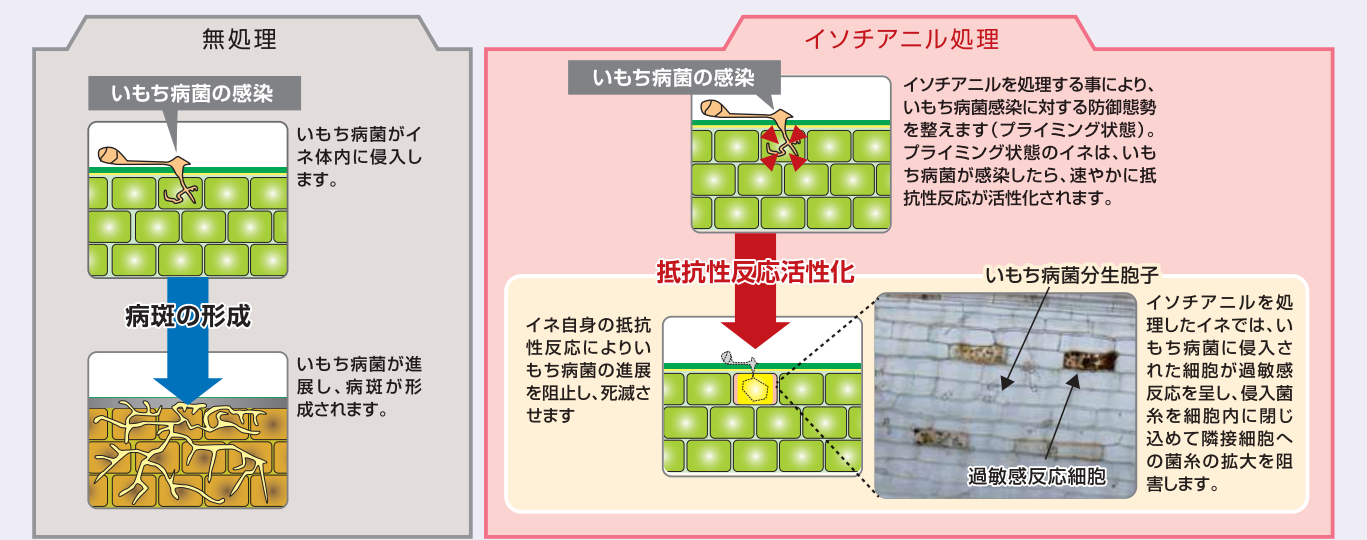
2019年 バイエルクロップサイエンス(株)社内試験



テトラニプロール処理により、摂食活動の停止と虫体萎縮症状が見られました。

## イソチアニルの作用機構

- イソチアニルは、イネが本来持っている自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。
- イソチアニルは処理後速やかに根部より吸収され、イネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導して、病原菌の侵入に備える自己防御態勢をイネに整えます。





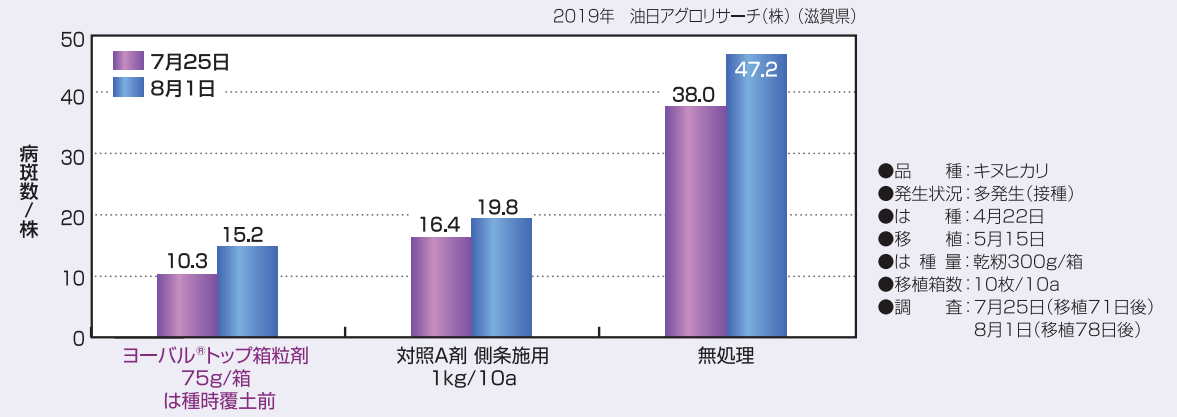
## ヨーバル® トップ箱粒剤の高密度播種への適用性

高密度播種では面積当りの育苗箱数が減るため、通常の水稻箱粒剤の薬量(50g/箱)では病害虫への効果の安定性が問題となる場合があります。

高密度播種における  
ヨーバル® トップ  
箱粒剤の  
処理によるメリット

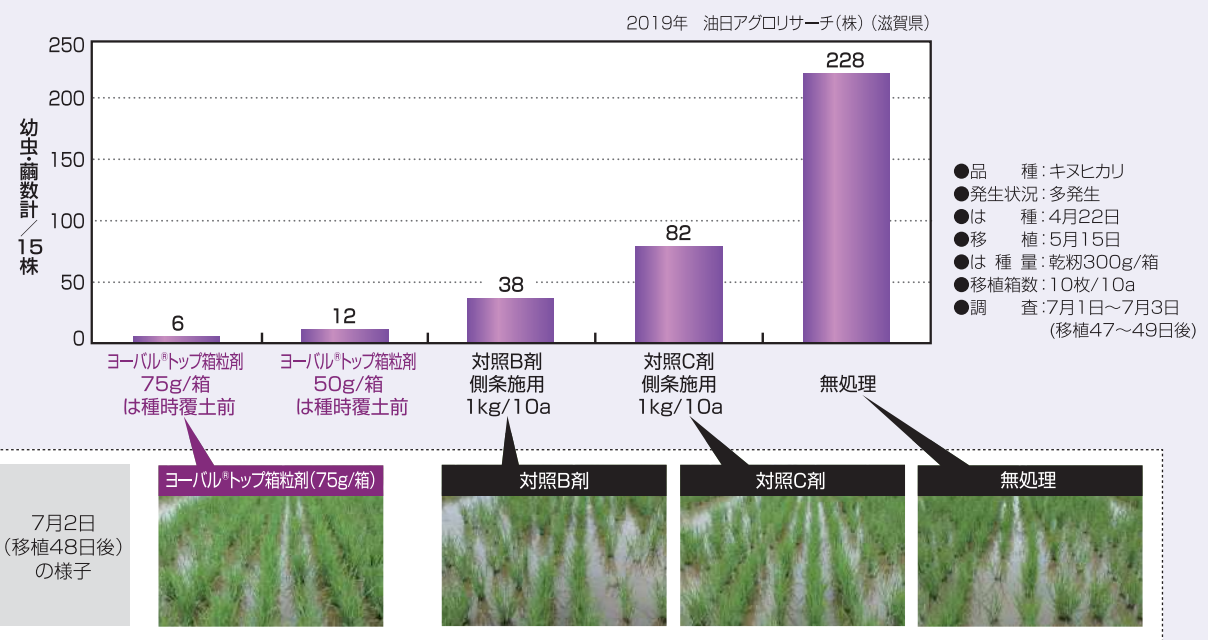
- ① 安定した効果…10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの薬量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)
- ② 簡便・省力…は種時施肥機を使用したは種時覆土前処理により、通常のは種作業の中で処理ができます。

### ●高密度播種 いもち病(葉いもち)への効果



ヨーバル®トップ箱粒剤75g/箱のは種時覆土前処理は、いもち病(葉いもち)に対し、高い効果を示しました。

### ●高密度播種 イネミズゾウムシ(幼虫)への効果



ヨーバル®トップ箱粒剤75g/箱のは種時覆土前処理は、イネミズゾウムシ(幼虫)に対し、高い効果を示しました。

## ヨーバル® トップ箱粒剤の水稻への安全性

■ヨーバル®トップ箱粒剤は  
水稻へ高い安全性を有し、は種前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

### ●倍量薬害試験

2015年 シンテック・リサーチ・ジャパン(株)(茨城県)

#### ◆50g/箱処理



ヨーバル®トップ箱粒剤

#### ◆150g/箱処理(慣行播種における最大登録薬量の倍量)



ヨーバル®トップ箱粒剤

●品種:コシヒカリ ●使用培土:苗みどり ●は種:5月20日 ●処理:5月20日 ●は種量:乾籾150g/箱 ●調査:6月8日

いずれの処理でも、地上部の生育は無処理と同等でした。  
いずれの倍量区(150g/箱処理)においても、マット強度に問題は認められませんでした。

### ●使用して問題の無かった水稻品種、育苗用培土の事例(慣行播種/は種時覆土前処理での確認事例)

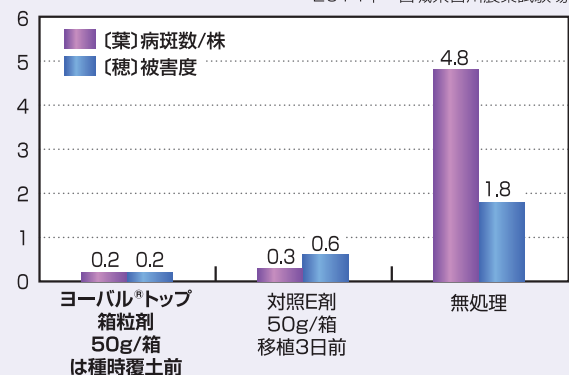
水稻品種	あいちのかおりSBL・あきたこまち・キヌヒカリ・きぬむすめ・こしいぶき・コシヒカリ・しずく媛・ナツミノリ・はえぬき・ハナエチゼン・ひとめぼれ・ヒノヒカリ・まっしぐら・みずかがみ・ゆめみづほ・わたぼうし・関東90号・日本晴・恋の予感
育苗用培土	アグリ培土・あわら培土・イセキ培土ライト・いなほ培土・宇部粒状培土2号・極きわみつけ・クボタ春風床土・くみあい宇部粒状培土2号・くみあい粒状培土WK・くみあい粒状複合434号・くみあい粒状複合464号・グリーンソイル・合成培土みつ3号・ゴールデンゼオライト培土・信濃培養土1号・苗みどり・びわこ培土2号(床土)・びわこ培土1号(覆土)・平成培土・ヤンマーすこやか培土・粒状水稻培土輝



# 病害虫への効果

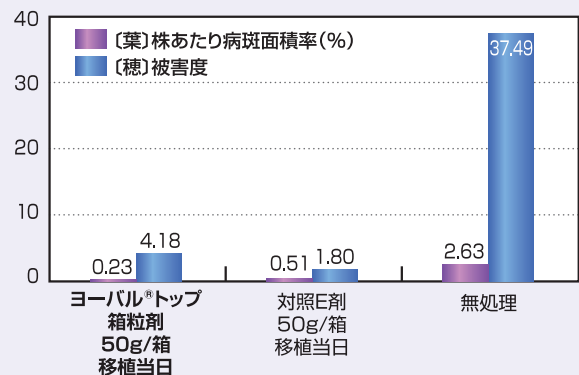
## ■いもち病への効果

2014年 宮城県古川農業試験場



●品種:ひとめぼれ ●発生状況:少発生(葉、接種)、少発生(穂)  
 ●接種:6月20日 ●出穂:8月5日 ●は種:5月2日 ●移植:5月22日  
 ●調査:8月5日(葉)、8月27日(穂)

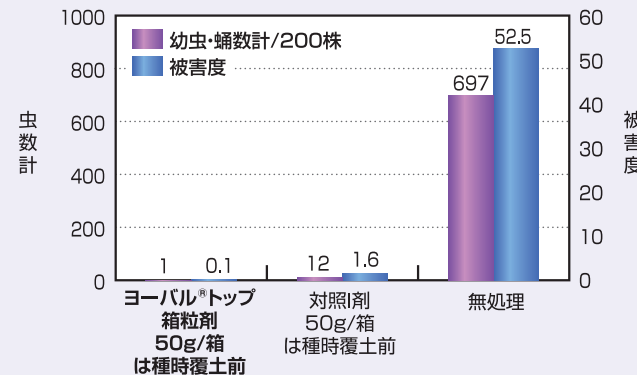
2014年 青森県産業技術センター農林総合研究所



●品種:ゆめあかり ●発生状況:多発生(葉、接種)、多発生(穂)  
 ●接種:6月25日 ●出穂:8月1日 ●は種:4月16日 ●移植:5月23日  
 ●調査:7月25日(葉)、9月7日(穂)

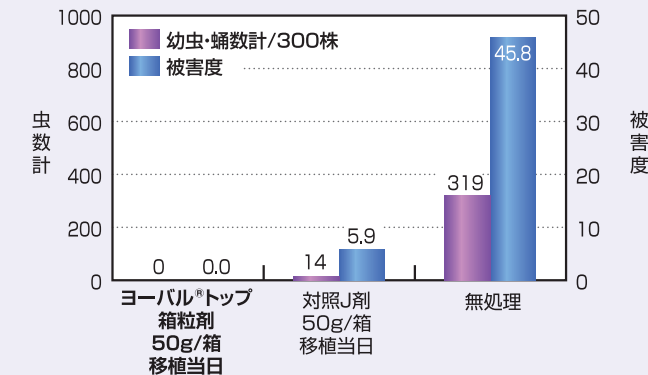
## ■イネドロオウムシへの効果

2014年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所



●品種:コシヒカリ ●発生状況:甚発生  
 ●は種:4月8日 ●移植:5月7日  
 ●調査:6月10日(移植34日後)

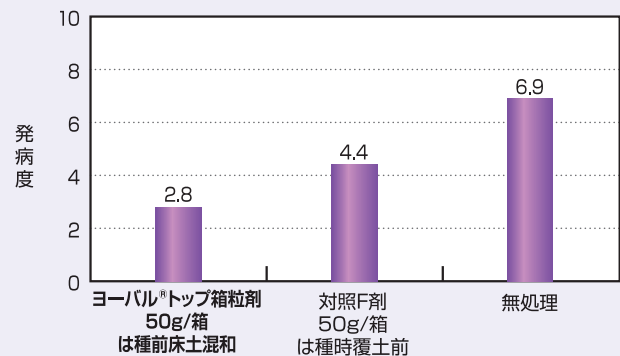
2015年 (一社)宮城県植物防疫協会



●品種:ひとめぼれ ●発生状況:中発生(放虫)  
 ●は種:3月30日 ●移植:5月5日  
 ●調査:6月26日(移植52日後)

## ■白葉枯病への効果

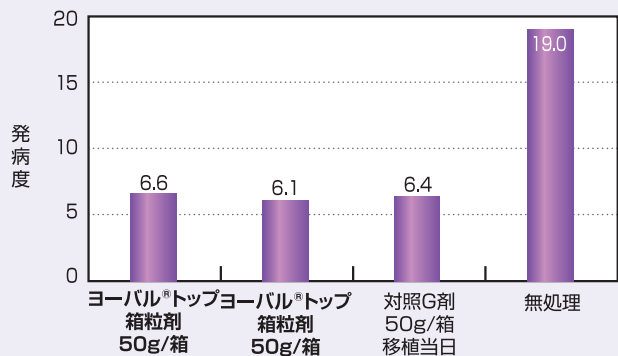
2014年 石川県農林総合研究センター農業試験場



●品種:石川43号 ●発生状況:中発生(接種)  
 ●接種:5月13日(罹病苗配置) ●は種:4月4日  
 ●移植:5月7日 ●調査:8月13日(出穂26日後)

## ■もみ枯細菌病への効果

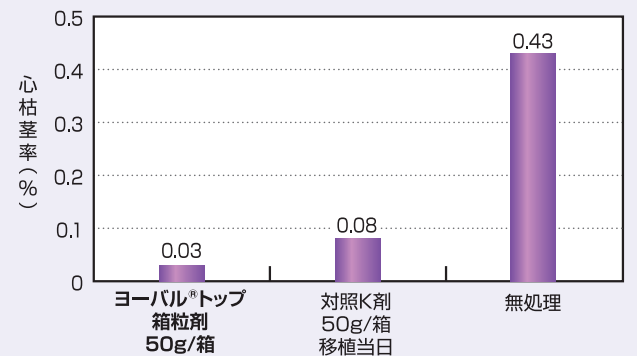
2015年 滋賀県農業技術振興センター



●品種:キヌヒカリ ●発生状況:中発生(接種)  
 ●接種:7月10日 ●は種:4月24日 ●移植:5月14日  
 ●出穂:7月31日 ●調査:8月19日

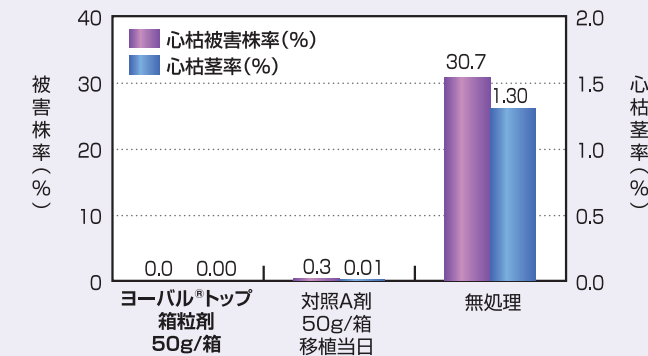
## ■ニカメイチュウへの効果

2014年 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場



●品種:ヒノヒカリ ●発生状況:少発生  
 ●は種:6月1日 ●移植:6月23日  
 ●調査:9月10日(移植79日後)

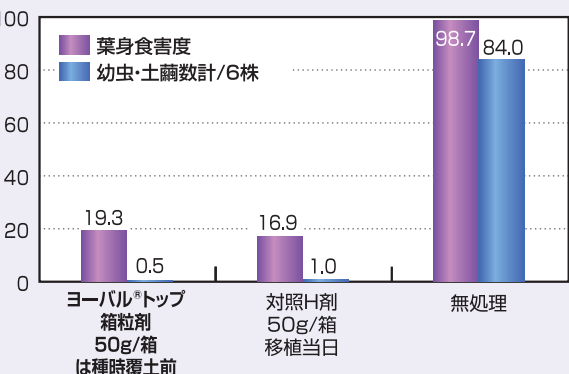
2014年 (一社)福井県植物防疫協会



●品種:ハナエチゼン ●発生状況:中発生  
 ●は種:4月12日 ●移植:5月6日  
 ●調査:7月18日(移植73日後)

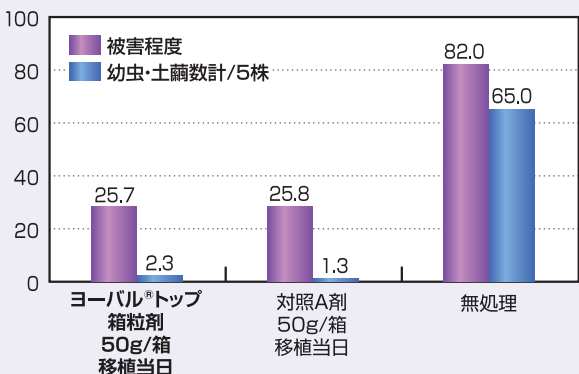
## ■イネミズゾウムシへの効果

2014年 愛知県農業総合試験場



●品種:コシヒカリ ●発生状況:中発生  
 ●は種:3月25日 ●移植:4月23日  
 ●調査:5月29日(葉身食害度)、6月27日(幼虫・土繭数)

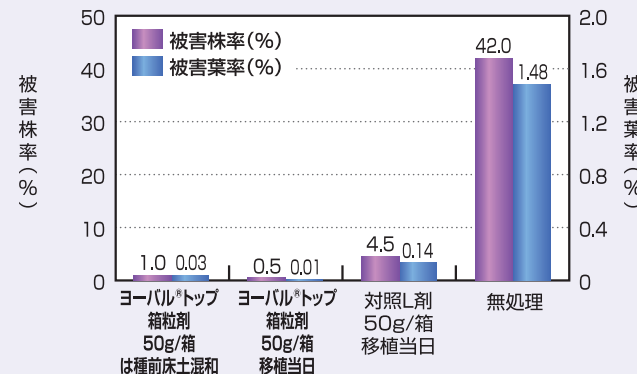
2015年 石川県農林総合研究センター農業試験場



●品種:ゆめみづほ ●発生状況:多発生  
 ●は種:4月3日 ●移植:4月30日  
 ●調査:6月8日(被害程度)、7月7日(幼虫・土繭数)

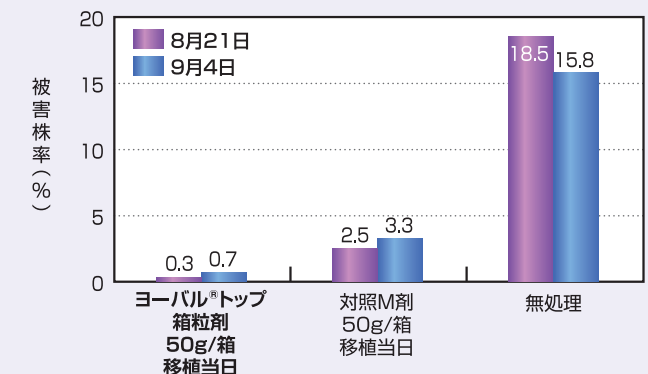
## ■コブノメイガへの効果

2015年 山口県農林総合技術センター



●品種:ヒノヒカリ ●発生状況:少発生  
 ●は種:5月28日 ●移植:6月19日  
 ●調査:8月12日(移植54日後、第一世代被害)

2015年 シンテックリサーチ・ジャパン(株)福岡試験地

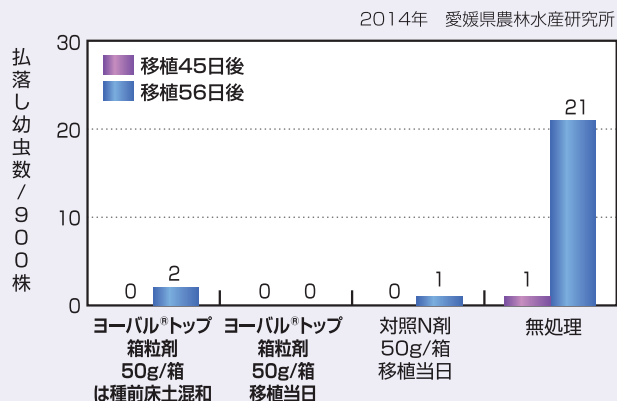


●品種:ヒノヒカリ ●発生状況:少発生  
 ●は種:5月25日 ●移植:6月19日  
 ●調査:8月21日(移植63日後)、9月4日(移植76日後)

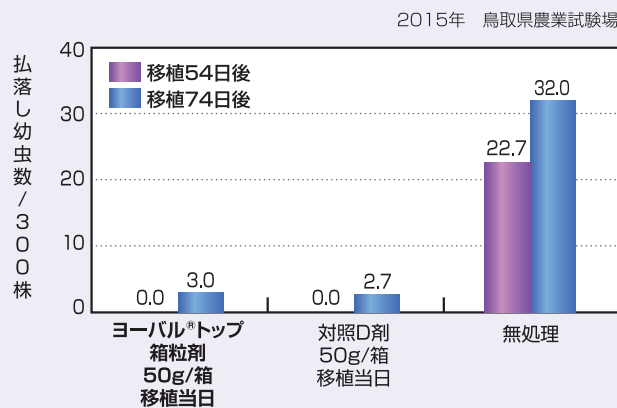


## 病害虫への効果

### ■フタオビコヤガへの効果

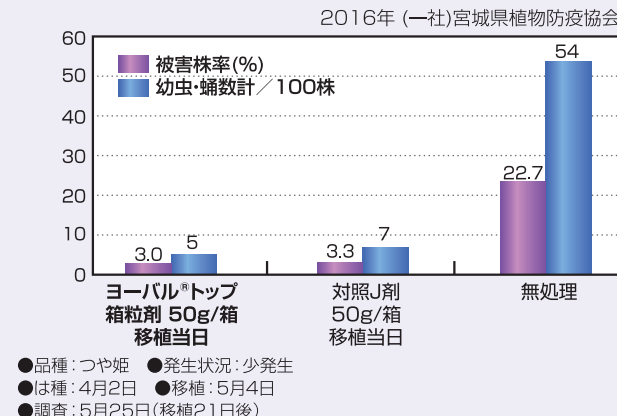


●品種: しずく媛 ●発生状況: 少発生  
 ●は種: 6月6日 ●移植: 6月25日  
 ●調査: 8月9日(移植45日後)、8月20日(移植56日後)



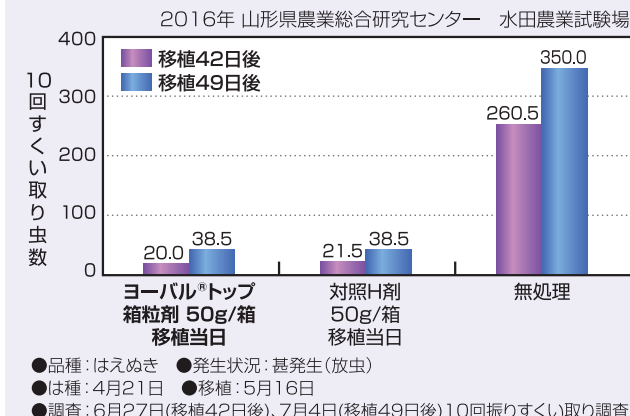
●品種: きぬむすめ ●発生状況: 少発生  
 ●は種: 5月8日 ●移植: 5月28日  
 ●調査: 7月21日(移植54日後)、8月10日(移植74日後)

### ■イネヒメハモグリバエへの効果



●品種: つや姫 ●発生状況: 少発生  
 ●は種: 4月2日 ●移植: 5月4日  
 ●調査: 5月25日(移植21日後)

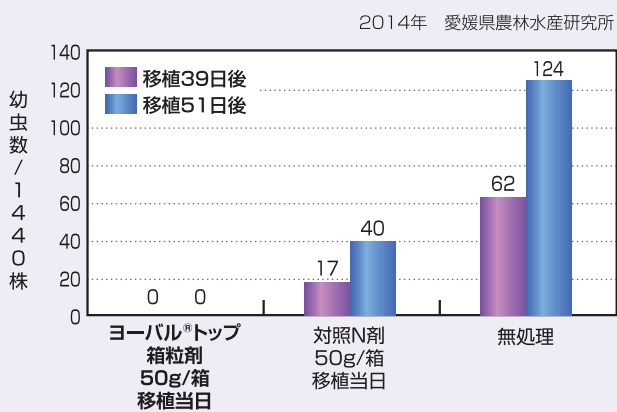
### ■イナゴ類(コバネイナゴ)への効果



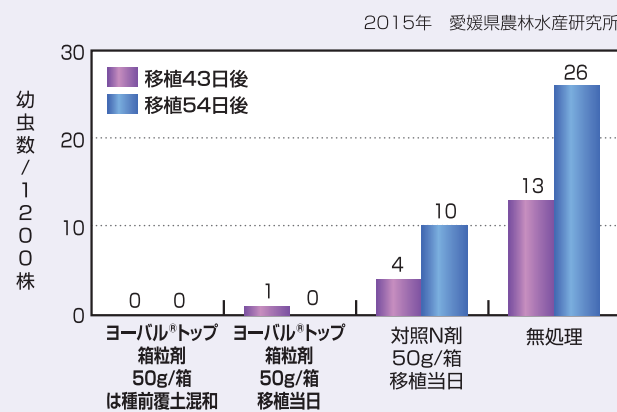
●品種: はえめき ●発生状況: 甚発生(放虫)  
 ●は種: 4月21日 ●移植: 5月16日  
 ●調査: 6月27日(移植42日後)、7月4日(移植49日後) 10回振りすくい取り調査

## 新農薬実用化試験 概評(抜粋)

### ■イネツムシへの効果

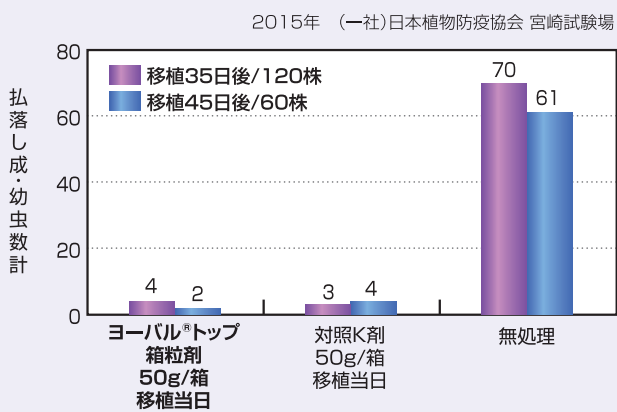


●品種: しずく媛 ●発生状況: 中発生  
 ●は種: 6月6日 ●移植: 6月25日  
 ●調査: 8月3日(移植39日後)、8月15日(移植51日後)

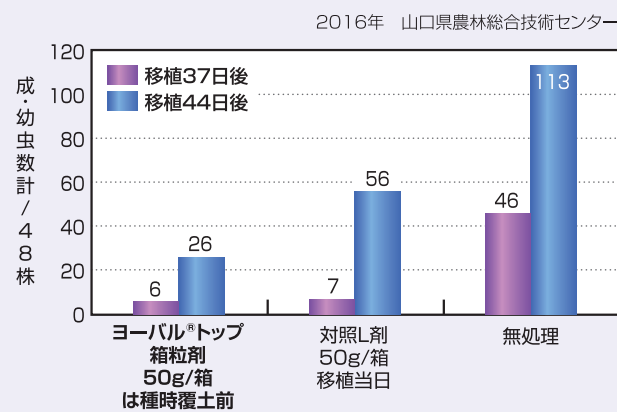


●品種: しずく媛 ●発生状況: 少発生  
 ●は種: 6月5日 ●移植: 6月24日  
 ●調査: 8月6日(移植43日後)、8月17日(移植54日後)

### ■ツマグロヨコバイへの効果



●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 少発生 ●は種: 6月6日  
 ●移植: 6月29日 ●出穂: 8月30日  
 ●調査: 8月3日(移植35日後)、8月13日(移植45日後)



●品種: ヒノヒカリ ●発生状況: 少発生 ●は種: 6月1日  
 ●移植: 6月20日 ●出穂: 8月30日  
 ●調査: 7月27日(移植37日後)、8月3日(移植44日後)

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名)調査項目	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)		効果			被害	
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)	対照薬剤名	対照薬剤名	対照	対無	判定		
2014	稲(関東90号) 移植: 6/16 出穂: 8/25	いもち病(葉,穂) <病斑数,被害度>	岡山農研	本田	葉甚(接種)穂甚	50g/箱	床土混和	1	5/30(は種前) <葉7/29,穂9/26>	A剤 50g/箱 (移植当日)	葉B 穂C	A	A	A	-	
2014	稲(コシヒカリ) 移植: 5/12 出穂: 7/29	いもち病(葉,穂) <病斑数,被害度>	日植防干葉	本田	葉少(接種)穂極少	50g/箱	覆土混和	1	4/14(は種前) <葉7/12,穂8/18>	D剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉B 穂?	A?	B?	B?	-	
2014	稲(ひとめぼれ) 移植: 5/22 出穂: 8/5	いもち病(葉,穂) <葉:株あたり病斑数> <穂:被害度>	宮城古川	本田	葉少穂少(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/2(は種時覆土前) <葉8/5,穂8/27>	F剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉B 穂B	A	B	B	-	
2014	稲(ゆめあかり) 移植: 5/23 出穂: 8/1	いもち病(葉,穂) <病斑面積率,被害度,発病穂率>	青森	本田	葉多(接種)穂多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/23(移植当日) <葉7/25,穂9/7>	E剤 50g/箱 (移植当日)	葉A 穂B	A	A	A	-	
2014	稲(ナツミノ) 移植: 5/16 出穂: 7/30	いもち病(葉,穂) <病斑数,被害度>	秋田	本田	葉少(接種)穂中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/16(移植当日) <葉7/31,穂9/11>	O剤 50g/箱 (移植当日)	葉A 穂B	A	C	B	C	-
2014	稲(関東90号) 移植: 6/16 出穂: 8/25	いもち病(葉,穂) <病斑数,被害度>	岡山農研	本田	葉甚(接種)穂甚	50g/箱	育苗箱施用	1	6/16(移植当日) <葉7/29,穂9/26>	A剤 50g/箱 (移植当日)	葉B 穂B	A	A	A	-	

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名)調査項目	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)		効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)	対照薬剤名	対照薬剤名	対照	対無	判定	
2014	稲(石川43号) 移植: 5/7 出穂: 7/18頃	白葉枯病 <発病度>	石川	本田	中(接種)	50g/箱	床土混和	1	4/4(は種前) <8/13>	F剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	B	B	B	-
2014	稲(ヒノヒカリ) 移植: 6/2 出穂: 8/24	白葉枯病 <発病株率,発病度>	日植防干葉	本田	少(接種)	50g/箱	覆土混和	1	5/6(は種2日前) <9/18>	P剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	C	C	C	-
2014	稲(ヒノヒカリ) 移植: 6/18 出穂: 8/25頃	白葉枯病 <発病葉率,発病度>	京都府大(病)	本田	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/21(は種時覆土前) <9/11>	Q剤 50g/箱 (移植3日前)	C	C	C	C	-
2014	稲(ヒノヒカリ) は種: 5/21 移植: 6/18 出穂: 8/25頃	白葉枯病 <発病葉率,発病度>	京都府大(病)	本田	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/18(移植当日) <9/11>	Q剤 50g/箱 (移植3日前)	C	C	C	C	-
2014	稲(ヒノヒカリ) は種: 5/7 移植: 6/10 出穂: 8/23	白葉枯病 <発病葉率,発病度>	日植防高知	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/10(移植当日) <8/28,9/16>	Q剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	B	-
2017	稲(ヒノヒカリ) は種: 5/17 移植: 6/14 出穂: 8/25頃	白葉枯病 <発病葉率,発病度>	京都府大(病)	本田	多~甚(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/14(移植当日) <9/14>	R剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	B	B	B	-
2017	稲(ヒノヒカリ) は種: 4/24 移植: 6/2 出穂: 8/20	白葉枯病 <発病葉率,発病度>	日植防高知	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/2(移植当日) <8/28,9/16>	Q剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	B	-



# 新農薬実用化試験 概評 (抜粋)

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名) (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2015	稲(コシヒカリ) は種: 8/4	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病度)	福島	室内	多(接種)	50g/箱	床土混和	1	8/3(は種前日) (8/18)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	D	D	D	-
2015	稲(恋の予感) は種: 5/8	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病苗率, 発病度)	近中四農研(病)	施設	少	50g/箱	床土混和	1	5/8(は種前) (5/25)	S剤 30g/箱 (は種前培土混和)	D	C	C	-
2017	稲(ひとめぼれ) は種: 8/17	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病度)	岩手(病虫)	施設(箱)	甚(接種)	50g/箱	覆土混和	2	8/17(は種前) (9/1は種19日後)	T剤 50g/箱 (は種時覆土前)	D	D	D	-
2017	稲(ヒノヒカリ) は種: 10/3	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病苗率, 発病度)	京都府大(病)	施設	中(接種)	50g/箱	覆土混和	1	10/3(は種前) (10/17)	D剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	C	C	-
2014	稲(日本晴) は種: 10/30	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病苗率, 発病度)	京都府大(病)	施設	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	10/30(は種時覆土前) (11/13)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	D	C	C	-
2015	稲(コシヒカリ) は種: 8/4	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病度)	福島	室内	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	8/4(は種時覆土前) (8/18)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	C	B	B	-
2015	稲(こしひびき) は種: 10/7	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病度)	新潟作	施設	少(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	10/7(は種時覆土前) (10/23)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	C	B	B	-
2015	稲(コシヒカリ) は種: 5/20	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病度)	富山	施設	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/20(は種時覆土前) (6/5)	P剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	D	D	-
2015	稲(日本晴) は種: 7/9	もみ枯細菌病(苗腐敗症) (発病苗率, 発病度)	京都府大(病)	施設	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	7/9(は種時覆土前) (7/28)	D剤 50g/箱 (は種時覆土前)	D	D	D	-

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名) (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2015	稲(日本晴) は種: 5/15 移植: 6/5 出穂: 8/17	もみ枯細菌病 (発病度)	山口(病虫)	本田	極少(接種)	50g/箱	床土混和	1	5/15(は種前) (9/3)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	B	D	D	-
2016	稲(みずかがみ) 移植: 4/27 出穂: 7/17	もみ枯細菌病(穂) (発病度)	滋賀農技セ	本田	少(接種)	50g/箱	床土混和	1	4/8(は種前) (穂: 8/1)	G剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2015	稲(コシヒカリ) 移植: 5/15 出穂: 7/31	もみ枯細菌病 (発病率, 発病度)	日植防干葉	本田	中(接種)	50g/箱	覆土混和	1	4/15(は種前) (8/10)	P剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	B	B	±
2015	稲(キヌヒカリ) は種: 4/24 移植: 5/14 出穂: 7/31	もみ枯細菌病 (発病率, 発病度)	滋賀農技セ	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	4/24(は種時覆土前) (穂: 8/19(出穂19日後))	G剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	-
2015	稲(コシヒカリ) 移植: 5/8 出穂: 8/5	もみ枯細菌病 (発病率, 発病度)	高知大(病)	本田	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(は種時覆土前) (8/17)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
2015	稲(コシヒカリ) 移植: 5/15 出穂: 7/31	もみ枯細菌病 (発病率, 発病度)	日植防干葉	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(移植当日) (8/10)	P剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	C	C	-
2015	稲(キヌヒカリ) は種: 4/24 移植: 5/14 出穂: 7/31	もみ枯細菌病 (発病率, 発病度)	滋賀農技セ	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/14(移植当日) (穂: 8/19(出穂19日後))	G剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B	-
2015	稲(コシヒカリ) 移植: 5/8 出穂: 8/5	もみ枯細菌病 (発病率, 発病度)	高知大(病)	本田	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/29(移植当日) (8/17)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名) (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2015	稲(こしひびき) は種: 9/10	苗立枯細菌病 (発病度)	新潟作	施設(ガラス室)	多(接種)	50g/箱	床土混和	1	9/10(は種前) (9/29)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	C	C	C	-
2015	稲(コシヒカリ) は種: 5/8	苗立枯細菌病 (発病度)	福島	室内	甚(接種)	50g/箱	覆土混和	1	5/7(は種前日) (5/22)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	D	C	C	-
2015	稲(日本晴) は種: 5/5	苗立枯細菌病 (発病苗率, 発病度)	京都府大(病)	施設(箱)	甚(接種)	50g/箱	覆土混和	1	5/5(は種前) (5/18)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	D	D	D	-
2014	稲(日本晴) は種: 9/11	苗立枯細菌病 (発病苗率, 発病度)	京都府大(病)	施設	甚(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	9/11(は種時覆土前) (9/25)	S剤 20g/箱 (は種時覆土前)	D	C	C	-

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名) (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2015	稲(コシヒカリ) は種: 4/17 移植: 5/18	穂枯れ(ごま葉枯病) (発病率, 発病度)	日植防干葉	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/18(移植当日) (9/10~11)	G剤 50g/箱 (移植当日)	B	C	C	-
2016	稲(キヌヒカリ) 移植: 6/6 出穂: 8/9	穂枯れ(ごま葉枯病) (発病率, 発病度)	兵庫	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	6/6(移植当日) (9/8)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	B	C	C	-
2016	稲(日本晴) 移植: 6/9 出穂: 8/16	穂枯れ(ごま葉枯病) (発病度)	山口(病虫)	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/9(移植当日) (9/26)	L剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	B	-

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(菌名,種名) (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2015	稲(ヒノヒカリ) 移植: 6/8 出穂: 8/25	内穎褐変病 (発病率, 発病度)	奈良植	本田	少	50g/箱	床土混和	1	5/14(は種前) (9/13)	T剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	C	C	-
2016	稲(ヒノヒカリ) は種: 5/15 移植: 6/15 出穂: 8/25	内穎褐変病 (発病率, 発病度)	奈良植	本田	少	50g/箱	覆土混和	1	5/15(は種前) (9/10出穂16日後)	T剤 50g/箱 (は種時覆土前)	D	C	C	-
2015	稲(キヌヒカリ) は種: 5/22 移植: 6/12 出穂: 8/15	内穎褐変病 (発病率, 発病度)	埼玉	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/22(は種時覆土前) (9/2)	Q剤 50g/箱 (移植当日処理)	B	C	C	-
2015	稲(キヌヒカリ) 移植: 6/2	内穎褐変病 (発病度)	兵庫植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/2(移植当日) (9/2)	U剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
2015	稲(ヒノヒカリ) は種: 6/8 出穂: 8/25	内穎褐変病 (発病率, 発病度)	奈良植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/8(移植当日) (9/13)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-
2015	稲(にこまる) 移植: 6/24 出穂: 9/6	内穎褐変病 (発病度)	日植防岡山	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/24(移植当日) (9/23)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	C	C	C	-

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(種名) (調査項目)	実施場所	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/28 移植: 5/20	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	日植防山梨	本田	中	50g/箱	床土混和	1	4/28(は種前) (移植29,37,44日後)	H剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/14 移植: 5/9	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	日植防干葉	本田	中	50g/箱	覆土混和	1	4/14(は種前) (移植31日後)	V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/8 移植: 5/7	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	日植防茨城	本田	甚	50g/箱	育苗箱施用	1	4/8(は種時覆土前) (移植28,34日後)	I剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 5/15 移植: 6/5	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	日植防茨城	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/5(移植当日) (移植35日後)	V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(ひとめぼれ) は種日: 3/29 移植日: 5/5	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	宮城植	本田	中(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/5(移植当日) (移植43,52日後)	J剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/14 移植: 5/9	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	日植防干葉	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植当日) (移植31日後)	V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 5/9 移植: 5/31	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	日植防山梨	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/31(移植当日) (移植30日後)	H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2015	稲(ひとめぼれ) は種: 5/5	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	宮城植	本田	中(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/5(移植当日) (移植42,52日後)	J剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2015	稲(コシヒカリ) は種: 4/5 移植: 5/8	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	石川植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(移植当日) (処理31日後)	Q剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
2015	稲(コシヒカリ) 移植: 5/11	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	茨城	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/11(移植当日) (移植28,35日後)	H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

実施年度	作物名(品種)栽培条件	病害虫名(種名) (調査項目)	実施場所	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			被害
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無処理	判定	
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/28 移植: 5/20	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	日植防山梨	本田	多	50g/箱	床土混和	1	4/28(は種前) (移植45日後)	H剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/14 移植: 5/9	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	日植防干葉	本田	多	50g/箱	覆土混和	1	4/14(は種前) (移植46日後)	V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 3/25 移植: 4/23	イネミスズムシ (密度指数(P,L))	愛知(病虫)	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	3/25(は種時覆土前) (移植65日後)	H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 3/25 移植: 4/23	イネミスズムシ (密度指数(P,L))	愛知(病虫)	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	4/23(移植当日) (移植65日後)	H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 5/15 移植: 6/5	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	日植防茨城	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	6/5(移植当日) (移植42日後)	V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2014	稲(コシヒカリ) は種: 4/14 移植: 5/9	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	日植防干葉	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植当日) (移植46日後)	V剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2015	稲(ひとめぼれ) は種: 5/17	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	宮城植	本田	中(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/17(移植当日) (34,42日後)	J剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2015	稲(ゆめめづろ) は種: 4/30	イネミスズムシ (無処理比(L,P))	石川	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/30(移植当日) (処理68日後)	A剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2015	稲(あきたこまち) は種: 4/14 移植: 5/15	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	長野	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(移植当日) (移植48日後)	W剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
2015	稲(コシヒカリ) は種: 3/24 移植: 4/21	イネミスズムシ (密度指数(L,P))	愛知(病虫)	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	4/21(移植当日) (移植66日後)	H剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-



新農薬実用化試験 概評(抜粋)

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Copromyiga trials.

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Inetomushi trials.

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Nicameitoku trials.

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Tsumagurokoba trials.

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Futabico trials.

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Inagou trials.

Table with 14 columns: 実施年度, 作物名(品種名), 病害虫名(種名), 実施場所, 圃場, 発生状況, 処理条件(濃度・量, 処理法, 回数), 対照薬剤名, 効果判定, 被害. Includes data for Inetomushi trials.